

2008 年度 小委員会活動成果報告

(20 年 月 日作成)

小委員会名	都市形成・計画史小委員会	主 査 名：宇杉和夫 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小林英嗣 主 査 名：
設 置 期 間	1999 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな都市計画理論及び技術・制度の展開にむけて史資料を収集し、課題と視点を整理する。(1999 年～2004 年) ・ 都市形成と計画の過程の分析・批評をもとに新たな都市再編の方法論を検討する (2003 年～2009 年) ・ 近代の空間システム・日本の空間システム研究から空間・計画の総合的文脈形成を検討する。(2006 年～2009 年) 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：2005 年度公募 3 委員、2007 年度公募 3 委員	
	主査 宇杉和夫 (日本大学) 幹事 木多道宏 (大阪大学) 中野茂夫 (京都工芸繊維大学) 委員 安田 孝 (摂南大学) 瀬口哲夫 (名古屋市立大学) 越沢 明 (北海道大学) 加藤仁美 (東海大学) 佐々木日嘉里 (花園大学) 中島直人 (東京大学) 鈴木栄基 (岩見沢市役所) 砂本文彦 (広島国際大学) 三ツ江国弘 (三ツ江環境意匠研究所) 川島智生 (府立今宮工業高等学校) 安部大輔 (政策研究大学院大学) 土田 寛 (都市環境研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	都市形成・計画史国際比較 WG (「都市形成・計画史」の国際比較研究に関する枠組みを検討。日本及びアジアに継承される空間システムと欧米から広がる近代化空間システムの関係について検討。)	
2008 年度予算	249,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	(名称) 特別研究シンポジウム共催 近代の空間システム・日本の空間システム 特別研究 都市と建築の 21 世紀：省察と展望 参加者数 30 名 (資料名) 近代の空間システム・日本の空間システム特別研究 都市と建築の 21 世紀：省察と展望 (2007 年度までの特別研究の成果を編集し報告書としてまとめた。) (特別委員会に代わって、シンポジウムの企画運営をした)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1 空間計画・都市計画の転換期には 20 世紀の都市建築に対する省察と 21 世紀の都市建築に対する展望を学際的な協力のもとに検討し、広報することが必要である。 2 20 世紀の空間計画が機能の標準供給に基盤をもっていたとすれば、21 世紀の空間形成計画は場所性と地域継承空間システムの基盤をどう次世代に継承できるかから検討する必要がある。

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度までのまとめ：2000年の第1回都市形成・計画史公開研究会から第19回公開研究会までの他に、特別研究シンポジウムの企画を5回実施した。 2. 本年度の成果：特別研究に求めた都市形成における「空間システム」とその計画学の学際性・専門性について、一定の基盤・合意ができた。 3. 次年次以降の体制：議論の末、「地域文脈形成・(地域空間システム)計画史研究」の目標を設定した。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで公開研究会の資料集をもとにした出版等の企画を立案していく必要がある。 2. 近代の空間システム・日本の空間システム特別研究シンポジウムの資料集をもとにした出版等の企画を立案していく必要がある。 3. 都市計画および空間総合形成における「地域文脈形成・計画史研究」の位置づけを明確にしていく必要がある。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。